

# 日銀の視点

11月14日に内閣府から第3四半期（7～9月）のGDP統計が公表された。実質値では前期比0・3%減、年率換算で1・2%減と、2四半期ぶりにマイナスに転じた。これは西日本の大雨と台風、北海道の地震など、この時期に見舞われた災害のために、製造業や物流、観光などが影響を受けたことが背景にある。

GDPは、Gross Domestic Productの頭文字を取ったもので、日本語では「国内総生産」。経済全体の動きを反映し景気動向を見る代表的な指標である。分かりやすいといえば「国民が1年間に稼いだお金の総額」。考え方としては、①政府や自治体等の公的機関が公共工事や行政サービ

日銀水戸事務所長 吉田 豊

スを行うために使ったお金（「公的需要」）と、②家庭や民間企業が物品の購入、製品の製造や搬送、投資、住宅建設などで使ったお金（「民間需要」）、そして③貿易を通じて海外とやりとりしたお金の収支尻（「貿易収支」）の合計値がGDPとなる。政府であっても、これら全ての商取引やお金の流れをつかんでいるわけではないので、把握できていないものも増えている。また、GDPは4半期ごとに作成・公表されるが、4半期の数字がそのまま1年間続いたらどうなるか、という計算をしたのが「年率換算」である。4半期末まで、あと3週間余り。来年は国行事やイベントが盛り込まれる。来年は国行事やイベントが盛り込まれる。来年は国行事やイベントが盛り込まれる。

## 国体でGDPに貢献

握りうる各種の統計から一定の条件をおいて「全体」としてはこうであろう」という値を算出する。つまり、GDPは「推計値」である。GDPは金額そのものの数字である「名目値」と、名目値から物価変動の影響を取り除いた「実質値」の二つの数字が公表される。名目GDPが前年より増えているものでも、それが物価上昇によるものであれば、経済が活性化して成長しているとはいえないので、経済成長の実力を測る上では「実質値」を見ることが多い。また、GDPは4半期ごとに作成・公表されるが、4半期の数字がそのまま1年間続いたらどうなるか、という計算をしたのが「年率換算」である。4半期末まで、あと3週間余り。来年は国行事やイベントが盛り込まれる。来年は国行事やイベントが盛り込まれる。来年は国行事やイベントが盛り込まれる。

（第2土曜日掲載）